

# キャナル・ビレッジ ~東京臨海副都心の提案~

MATSUMOTO DESIGN OFFICE

現在、臨海副都心では自慢の共同溝があるのですが、雨水は即座に海に流れるようになっています。そこで水路を形成し水循環を取り戻し、街の軸となるその水路と迷路のような路地によって空間を創りあげることをめざしました。やすらぎと、なつかしさを感じる複合的で奥行きのある都市になればいいのですが。東京都主催の「レインボータウンまちづくり都民提案」（一般の部）で優秀賞をいただいた作品です。

## Channel Village

～複雑系空間と秩序の創造～

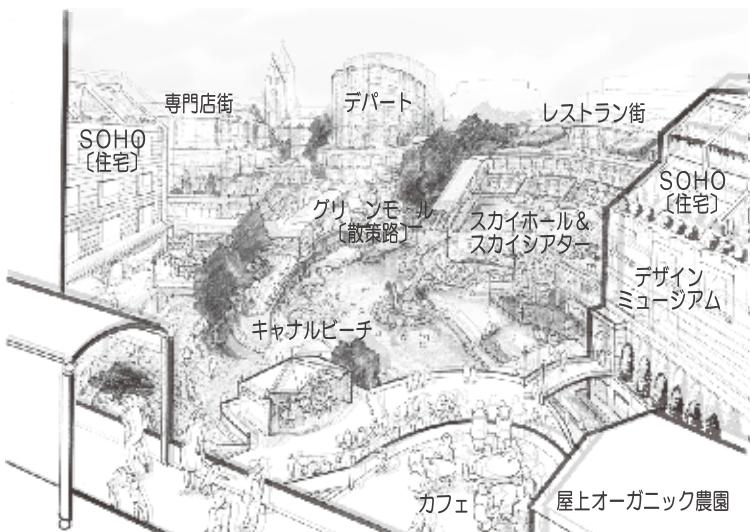
MATSUMOTO  
DESIGN  
OFFICE



＜空間＞＜機能＞＜人間＞それぞれの構成要素が、様々に絡み合い相互に作用し全体の総和として現在の都市計画にない人間主権（企業や経済論理に振り回された金権主義ではなく）をコンセプト軸にした「Channel Village」を提案する。

土地利用計画に制限されるのでなく、このコンセプトのみに制限を受ける施設機能を時間をかけて形成、育てるものである。例えば、エコロジカルで人にやさしいシステムであれば、工場でも農地菜園であっても受け入れOKとする。複雑系空間「Channel Village」では、都市のサスティナブルな生活のための情報生成能力や自己組織化能力が生まれ発展すること支援する社会システムを提供する。

空間としては、ロマンティック〔情緒性〕・ドラマティック〔劇場性〕・エコロジカル〔環境性〕を中心におき装置化する。下町の路地や欧州の街並みなど安らぎのあるなつかしい空間〔ヒューマンスケール・ヒューマンテイスト・ヒューマンテリトリーのある空間〕を設計の手引きとし、成熟期にはスケッチのような城郭村を構築する。機能の混和性、空間の重層、動線の複合、境界の曖昧性など複雑系空間の中に、テラスバレーによる視認性とカナル（水路）による軸によってシンボル性を高め、色彩・素材などによる統一性とそれを管理するNPO街組織により全体の秩序を与える。



### ■開発手法として

「創世期-発展期-成熟期」として3ステップとして行う。

#### 創世記

インフラ整備変更：雨水の水景への利用

→【水循環の確立】

【計画期】 共同溝の早期利用効率の向上〔村民の形成〕  
広場と仮設都市〔水路のある村〕の形成：環境意識の高い  
人・研究者、当計画の開発関係者を住人として受け入れ  
住民憲章の策定、住民による施設機能・業種の提案書策定

#### 発展期

テラスデッキ、劇場・商業施設の建設

エネルギー循環系設備（パワーピッソーラ、ソーラー発電、水循環など）

エネルギー循環システムの実験（現在の共同溝との関連で開発）

＜ライフラインからライフスポットへのバランスの検証＞

#### 成熟期

住民の増加への対応、城郭の拡大

施設機能の適正配置・移転、地域ビジネスの育成

エコロジカル  
〔環境性〕

人間主権

ドラマティック  
〔劇場性〕

ロマンティック  
〔情緒性〕